

第516回遊佐町議会定例会一般質問通告書

平成28年12月定例会

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1	5 番 土門 勝子 (一問一答)	1. 高齢者増を見据えた介護について	<p>人口減少・高齢化が進む中、町においても介護を必要としている高齢者が増加している。</p> <p>介護には在宅介護と施設介護があるが、どちらにせよ町として次の3点についての考えを伺う。</p> <p>1. 介護士不足に対する解消法は。(人材確保対策)</p> <p>2. 要介護者数と介護施設・ホームヘルパー数のバランスはとれているのか。(需要と供給)</p> <p>特別養護老人ホームへの入所待機者はどうか。</p> <p>3. マイレージ事業の現状について。</p>
2	6 番 赤塚 英一 (一問一答)	1. 地方創生における当町の取り組みは	<p>人口減少が進む中、人口の流出に歯止めをかけるためには、雇用の場を創出することは、喫緊の課題と考える。</p> <p>国としても、「東京一極集中の是正」、「若い世代の就労・結婚・子育ての希望実現」、「地域の特性に即した課題解決」を基本的視点として掲げ、地方創生の政策を推進しているなか、当町においても人口減少への取り組みの一つとして、雇用の創出、新規の起業、地域ブランドの確立等への支援への考え方を伺う。</p>
3	4 番 筒井 義昭 (一問一答)	<p>1. ガバメント・クラウド・ファンディングの導入による地域課題解決も一案ではないか。</p> <p>2. 鳥海山・飛鳥ジオパーク認定を受けての今後の取り組みは。</p>	<p>全国の自治体や個人が、クラウド・ファンディングによる課題解決や地域の活性化に取り組んでいる。</p> <p>遊佐町においても松林を守る活動や共存の森再生事業、地域おこし協力隊の定着等にクラウド・ファンディングの導入が効果的なのではないか。</p> <p>9月9日に鳥海山・飛鳥エリアが日本ジオパークに認定されたが、ジオサイト巡りのツアーのメニュー開発や、鳥海山を核としたジオストーリーの創出が求められている。</p> <p>いかにジオパーク認定による町の魅力アップと振興につなげて行こうとしているのか。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
4	<p style="text-align: center;">3 番 菅原 和幸 (一問一答)</p>	<p>1. 人口動態に対応した行政運営について</p>	<p>○平成27年10月実施された国勢調査によれば、山形県は65歳以上の割合が30%を超えた。本町は平成19年時点で30%を超えており、数年で約4割が65歳以上となると推測する。生産年齢人口(15歳～64歳)の減少は、財政面のほか今後の施策にも影響すると考える。若者定住施策が積極的に進められるなか、女性や高齢者視点での労働環境やインフラ等の整備を図るべきと考えるが。</p> <p>○地域の方々の相談窓口や情報提供を行い地域の安心安全に寄与する、民生委員・児童委員の新たな任期がスタートする。地域と行政との連携は万全か。</p>
5	<p style="text-align: center;">11 番 斎藤 弥志夫 (一問一答)</p>	<p>1. 水素ステーション建設中止</p>	<p>燃料電池自動車FCVは、燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車である。有害な排出ガスがゼロまたは少ない。走行時に発生するのは水蒸気のみ。騒音が少ない、充電が不要などのメリットがあるが、燃料電池そのものの価格が高い。水素の貯蔵や運送に高いコストがかかる。水素ステーションが全国に設置されないと、燃料電池車FCVの普及は難しいなどのデメリットもある。水素自動車については批判的な論調が多く、建設費が5億円もかかる水素ステーションをスーパー道の駅に建設するのは、ほとんど意味がない。</p>
		<p>2. 外部評価</p>	<p>外部評価委員会の設置の目的は、町が実施する行政評価に関し、評価制度の透明性と評価内容の客観性を確保することである。担当課年度評価は外部評価と77%同じであるが、外部評価と町としての考え方は100%同じである。町としての考え方は外部評価に合わせているのではないか。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
6	1 番 齋藤 武 (一問一答)	1. 臂曲地区岩石採取事業に対するこれまでの町の対応は適切だったのか。また、それらの経緯を踏まえ、今後どのように対処していくのか。	<p>11月8日に、遊佐町の健全な水循環を保全するための条例に基づき、町は臂曲地区での新たな岩石採取事業計画について規制対象事業とする旨の認定(告示)を行った。しかし事業者から、今後何らかの異議の申し立てがなされることが十分予想される。</p> <p>このような状況にあって、これまでの町の対応が、今後の行方を大きく左右することも考えられる。そこで交渉期限を迎えた公有地化交渉の顛末(てんまつ)や、これまでの地下水脈等の調査の実施状況、新たな採石計画を規制対象事業とした根拠について適切だったのか等を確認したい。</p> <p>この問題の取り組みについては、特に外部専門家等との連携において、町の本気度が厳しく問われている。</p> <p>今後すべきことについても、町の認識を確認したい。</p>
7	7 番 阿部 満吉 (一問一答)	1. 岩石採取について 2. パーキングエリアタウンについて	<p>①採取新計画に対し、規制の対象とする事にしたが、現在ストックされている岩石の搬出は、いつ頃まで出来ると認識されているのか。</p> <p>また、緑化復旧の期限は。</p> <p>②今回の新計画は、これまでの採石地からの継続だが、他の地点から採石する新計画が出されても、町の条例の規制対象と考えるか。</p> <p>スーパー道の駅をめざして、視察も含め調査・研究されていると思うが、期待を込めてプランの内容をお聞きしたい。</p>
8	9 番 高橋 冠治 (一問一答)	1. 旧天狗森スキー場跡地のソーラー発電施設の監督責任は。 2. 町の学校給食の現状課題は。	<p>町が賃貸契約を結んでいる、旧天狗森スキー場跡地に造成・設置したソーラー発電施設が今秋に完成した。</p> <p>完成に伴い杉沢地域等では、設置のり面の角度や、地肌がむき出しになっている事に対して、豪雨等の土砂の流失や山崩れ等が心配されている。町の監督責任は。</p> <p>児童数・生徒数が減っているなか、給食食材(野菜)の町内(県産含む)利用割合が県内でも非常に高い。しかし食材が少量多品目にわたる事から、生産者も調理師側も提供・調達に苦慮している。</p> <p>野菜を提供する地元農家は天候や生産面積の割り振りなど、苦労は絶えない。野菜の提供・調達に町の対応は。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
9	2 番 松永 裕美 (一問一答)	1. 町の財源である国民健康保険税収納の現状について	<p>○国民健康保険税の収納の現状は過去3年間どのように推移しているか。</p> <p>○県内での収納率、順位はどれくらいか。</p> <p>○未収納の町民の方への回収のためのアクションはどのようなやり方か。</p> <p>○収納率アップに向けての方策は</p> <p>○町の不納欠損額はどのくらいか。</p>
		2. いじめ撲滅キャンペーンの展開について	<p>○全町内小・中学校において今年度いじめの実態はあるのかどうか。</p> <p>○町の宝である子ども達の健全育成のため、大人のサポートとして町内における「いじめ撲滅キャンペーン」も取り組むべきではないだろうか。</p>
		3. 町の観光の現状と取り組みについて	<p>○第22回地方×国政策研究会で観光庁が全面的に東北への観光客誘導に取り組んでいるが、当町での今後のタイアップの仕方は。</p> <p>○来年度夏、酒田港に寄港予定の豪華客船一隻が決まっている。コスタ・ネオロマンチカ（豪華客船）寄港や県・国の動きに、当町はどのようにアクションを考えているのか。</p> <p>○ふるさと CM 大賞の結果はどうであったか。</p>